

【ハートバンド】

飲酒運転死亡事故撲滅を願って

兵庫県神戸市から参りました、濱口雅子と申します。

今回、このような場に声をかけて頂き、本当にありがとうございます。

私は人の前で話す事は今迄ほとんど無く、お聞きづらい事もあると思います。

2015年8月23日

私達の大切な娘が、命を奪われた日です。神奈川県葉山町で起きた、「飲酒運転ひき逃げ事件」の被害者です。

事件の詳細は 海の家で友人3人とお酒を飲み、直後に4人で車に乗り込み、法定速度の2倍近いスピードで車を走らせ、道路の端を歩いていた、娘を含む3人を跳ね、猛スピードで走り去ったという事でした。

周りにいた友達が、すぐに心臓マッサージをし続けてくれて、目を覚まして欲しくて名前を呼び続けてくれたそうです。

でも、娘は二度と目を覚ます事はありませんでした。

即死でした。

犠牲になった友人二名のうち一名の方は自分の体が飛んでいる事も、他に娘と自分の彼女の体が飛んでいる所も見て覚えているそうです。

もう一人の方は、10日間も目が覚めませんでした。

連絡を受けたご両親は、娘さんの命がただ助かって欲しくて、耳元で励まし続けましたと仰っています。

彼女が目覚めた時には、自分がこんな酷い事故に巻き込まれたとはわからない程でした。知った時の、混乱と悲しみを思うと、辛いです。

望が死んでしまったと知ってからは、どんな辛いリハビリにも弱音を言わなかったそうです。運転をしていた男は逃げた上に、飲酒をしていた事を隠す為に、自宅で発泡酒を飲んだという偽装工作をしております。

検察の方や警察の方々が必死に証拠を集めてくださって、男は危険運転致死傷で起訴され、裁判員裁判で刑事裁判が行われて懲 役11年を言い渡され服役しております。

一緒に飲んで騒いでいた同乗者3人は何の罪にも問われませんでした。

運転者が偽装工作をして飲酒量が確定できなかったからです。

彼らは裁判の中でも、堂々と話していましたが、お酒を飲んで運転する事に対して、何の罪の意識も持っていませんでした。

そんな事は日常だと言いました。

事故が起きたのはお酒が原因では無いとまで言っていました。

それどころか、事件が起きた事に対して何も関心が無いように思えました。
一人が即死で二人が重傷で、命も危うかったにも関わらず、自分達は無関係で運が悪かったくらいにしか考えていないようでした。

刑事裁判が終わり、同乗者に対して、とても不安な思いと怒りを持っていた私達は、民事裁判で同乗者の責任を問いたいと思いました。

でも、同乗者の責任を問う裁判を起こす事自体が難しく、引き受けてくださる弁護士の先生にお会いするのに時間がかかりました。

それでも、「裁判しましょう」と仰ってくださる弁護士の先生と出会えて、準備に取りかかりました。

その準備中に、心が凍るような動画を見つけてしまったんです。

あの同乗者3人が、事件の一年後の夏に、また同じようにお酒を飲んで騒いでいる動画をSNSにあげていたのです。

ふざけるな!!!って怒りが込み上げて来ました。

心底腹が立ちました。

彼らはお酒を飲んで運転する事に何の罪の意識も無かったので、また私達と同じように、悲しむ人が出るかもしれないと思うと悔しくて、苦しくて、毎日辛かったです。

どうしたらいいのかわからなくて、それならポスターを作って、彼らの住んでいる所に張り巡らせよう!と思い立ちました。

それが、飲酒運転撲滅のポスターを作ったキッカケです。

最初はめちゃくちゃ腹が立っていたので、怒りと恨みでいっぱいな物を考えました。

できたら全国至る所に貼りたかったので、信頼できる方に「こんなポスターを作りました。どう思いますか?」とお聞きしたら「怖いので貼りたくありません」と言われました。

望は小さい時から、絵を描く事が大好きでした。

絵を描いていたら、ご飯も食べなくていいくらいに、ずっと描いていました。

四歳の時には、もうすでにストーリーのある絵を描き上げて、私はその世界に驚き、見入ってしまった事を覚えています。

その時から、この子の世界を少しでも広げてあげよう!と思い、色んな事を一緒に体験しました。

海や、山や、田んぼや、畑や、神社を見たり、教会を見たり、花火や流れ星や... 考えられる事は全部一緒に体験しました。

彼女は中学生と高校生の時には一人で自転車で日本を縦断した事もあります。

小さい時から自分が描いた絵で周りの人を元気にしたいと考えていました。

それがずっと変わらずに、成長してからは更に具体的な夢として抱いていました。
そして、その小さい時からの夢に向かって、一歩ずつ確実に進んでいたのです。
高校生の時には、絵画の国際展で入選もしております。

私がポスターを作る事で娘の絵が怖いと思われるのはダメです。
それはやめようと思いました。
それから、ポスターを作りたいという私の思いに賛同して下さったメンバーの方々と色々悩んで考えて、出来上がったのが最高に可愛いポスターです。
このポスターの原案を見た時に、可愛くて泣きました。
私は娘の絵を使って、自分の恨みを晴らしちゃいけないだと思いました。

これで、飲酒運転ゼロを呼びかけよう!と決めました。
多くの人に受け入れて貰えるように、ポスターが可愛がって貰えるように言葉もポジティブな事にこだわりました。
頭を悩ませ、話し合い考え付いた言葉が
「素敵な飲み方してますか? Good Manners Drinking」です。
そして、頭文字をとって GMDプロジェクトと名付けて動き出しました。
私達の事故を起こした人達は、19.20歳の若者です。
裁判で彼等を見た時に、目が虚ろで何も興味がないような感じだった事にとっても怖さを感じました。
この人達は何に興味があるのだろう?
この種類の人達に響く事は何だろう?
いったい何が一番インパクトがあるのだろう?
とずっと考えていました。

素敵な飲み方してますか?
Good Manners Drinking

この言葉が響くかどうかわかりません。
それでも、ポスターを作成して、3月7日に神戸新聞さんが記事にしてくださってから、半年。
20回以上、新聞の記事にして頂きました。
最近では、11/20に宮城県大崎市の大崎タイムスさんと、11/23に神奈川新聞さんが記事にしてくださいました。

約5,000枚程のポスターを全国にお届けしております。

市の商工会、病院、自動車学校、図書館、お寺、ショッピングセンター、飲食店、ライブハウス、ガソリンスタンド、タクシー会社、神奈川県内の各警察署などに貼られています。お祭りや、イベントなどのポスターにも使われた地域もあります。

善意の方々が声をかけてくださって、北海道から沖縄までお届けしました。

愛知県では、愛知県、名古屋市、愛知県警察本部が後援の飲酒運転撲滅キャンペーンのポスターに採用され、今後、駐車場や飲食店、警察署などに貼られる予定です。

神戸市では、神戸市営地下鉄に12月3日から9日まで、各駅に貼られます。

NHK神戸や地元のサンテレビさんでも何回か特集を組んで頂けました。

飲酒運転は止める事ができます。
飲んだら乗らなければいいだけです。
簡単です。

私の大切な娘は、あの男がお酒を飲んで車を運転さえしていなければ、あるべき筈の命です。
生きていたらきっと彼女は作品を作り続け、悩んだり、笑ったりしながら、自分の道を歩いていた筈です。

どんな作品が作られたのか!
私達はそれを見る楽しみも奪われました。

もう、娘は帰ってきません。
あの子の顔を見る事もできません。
声も聞けません。
話す事もできません。
私がどんなに頑張っても、前向きに生きようと決めても、どんなに願っても娘に会う事もう二度とは出来ません。
こんな悲しい現実を受け入れるのは、とても辛いです。飲んだら乗らない

ただ、それだけで、飲酒運転の犠牲で命を失う人が、いなくなります。
悲しむ人がいなくなります。

素敵な飲み方してますか?
Good Manners Drinking

私はこのポスターが一枚でも多くの方の目に触れて欲しいと願っています。

きっとこれを見た人の心のどこかに残ると思うからです。
飲酒運転ゼロの願いを込めています。

もうこれ以上、大切な命が、不当に失われる事がない未来を切望してやみません。

ありがとうございました。